

名張市教育振興基本計画

**第二次名張市子ども教育ビジョン  
平成30年度進捗状況報告書**

令和元年 1 2 月

名張市教育委員会

## 目次

はじめに	1
<b>基本目標 1 確かな学力の向上</b>	<b>4</b>
(1) 学力の向上	
(2) 特別支援教育の推進	
(3) キャリア教育の充実	
(4) 情報教育の推進と ICT の活用	
(5) 就学前教育の充実	
(6) グローバル人材の育成	
<b>基本目標 2 豊かな人間性の醸成</b>	<b>7</b>
(1) 人権・同和教育、道徳教育の推進	
(2) ふるさと学習「なばり学」の推進	
(3) 持続可能な開発のための教育（ESD）の推進	
(4) 読書活動・文化芸術活動の推進	
<b>基本目標 3 健やかな体の育成</b>	<b>10</b>
(1) 健康教育の推進	
(2) 体力向上に向けた取組の推進	
(3) 食育の推進	
<b>基本目標 4 活力ある学校づくり</b>	<b>12</b>
(1) 教職員が働きやすい環境づくり	
(2) 学校の組織力の向上	
(3) 教職員の指導力の向上	
<b>基本目標 5 安全で安心な教育環境の整備</b>	<b>14</b>
(1) 子どもの安全・安心の確保	
(2) いじめや問題行動を未然に防ぐ学校づくり	
(3) 居心地の良い集団づくり	
(4) 学校の規模・配置の適正化の推進	
<b>基本目標 6 家庭・地域との協働の推進</b>	<b>17</b>
(1) 家庭の教育力の向上	
(2) 地域の教育力の向上	

## はじめに

### 1 第二次名張市子ども教育ビジョン

教育委員会では、「夢をはぐくみ心豊かでいきいきと輝く『ばりっ子』」を、めざす子ども像に掲げ、教育振興と新たな教育課題を解決するため、平成22年10月に名張市教育振興基本計画「名張市子ども教育ビジョン」を策定しました。

第二次名張市子ども教育ビジョン（以下、「本計画」という。）は、子どもを取り巻く教育環境が激しく変化していく中において、「名張市子ども教育ビジョン」をより確実な成果につなげていくため、10年先を見据えた長期的な視点に立ち、2016（平成28）年3月に作成しました。本市の総合計画『新・理想郷プラン』との整合を図り、計画の期間は、2016（平成28）年度から2025（令和7）年度までの10年間です。「主な取組」につきましては、2016（平成28）年度から2020（令和2）年度までの5年間としています。

本計画は、市総合計画に示す教育分野の施策を具体化する行動計画として位置付け、「豊かな自然と文化に包まれて誰もが元気で幸せに暮らせるまち 名張」の実現に向けて、本市の教育の方針や取組を体系的に整理し、市民総ぐるみで子どもの教育環境を整える計画と位置付けています。

### 2 進捗状況

この報告書では、本計画に掲げる施策の2018（平成30）年度、第3年次となる進捗状況や取組内容、成果と今後の取組の方向性について表記しました。

全30の成果指標・活動指標のうち、4つの指標が、全国学力・学習状況調査質問紙項目より外されたため、第3年次の進捗率については、26の指標をもって算出しました。（第4年次より同質問紙項目が復活しているため、4つの指標の変更はせず、引き続き進捗を検証していきます。）第3年次の進捗率の平均は63.75%で、昨年度進捗率の平均46.0%と比較し、17.75ポイント上昇しております。また、3年間の進捗状況は、平成28年度：36.7%、平成29年度：46.0%、平成30年度：63.75%と、順調に推移しております。

各指標のうち、令和2年度の目標値を超えたものについては、進捗率を100%としています。昨年度に引き続き進捗率が100%となった指標は、「算数の授業が『よくわかる』、『どちらかといえばよくわかる』と答えた児童の割合」（小学生）、「学級満足度調査による満足群にいる児童生徒の割合」、「学校生活支援ボランティアの登録者数」の3つで、新たに、「数学の授業が『よくわかる』、『どちらかといえばよくわかる』と答えた生徒の割合」（中学生）、「全国体力・運動能力、運動習慣調査による総合評価」（小学5年生女子）、「同」（中学2年生女子）、「通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒のうち、個別の

指導計画を保護者の合意のもと作成している割合」(小学生)、「同」(中学生)、「今、住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問に『当てはまる』、『どちらかといえば当てはまる』と答えた児童生徒の割合」(小学生)、「同」(中学生)、「名張Kidsサポータークラブの登録者数」の8つの指標の進捗率が100%に達しました。

一方、4つの指標についての進捗率は0%で、そのうち、「朝食を毎日食べていますか」という質問に『当てはまる』と答えた生徒の割合」(中学生)、「教育センターで開催した研修講座のアンケートで『満足している』と回答した参加者の割合」、「目的をもって生涯学習に取り組んでいる市民の割合」の3つの指標については、昨年度に引き続き、平成26年度現状値を下回っております。

### 3 成果と課題

本計画の3年次の成果として、学校と地域が協働して子どもたちを育てていこうとする動きが活発になってきたことがあげられます。3年次は、昨年度の南中学校区(1中学校・1小学校)に続いて、新たに1中学校・5小学校がコミュニティ・スクールとなり、その他の学校についても準備委員会を立ち上げるなど連携・協働に向けた気運が高まってきました。コミュニティ・スクール導入の成果は、「今、住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問に『当てはまる』、『どちらかといえば当てはまる』と答えた児童生徒の割合」の指標が小学生の目標値68.0%、及び中学生の目標値47.0%に達したことや、学校生活支援ボランティアの登録者数が年々増加し、学校支援が充実してきていることにも表れています。

また、学習意欲の向上についても、昨年度に引き続き、順調な成果が見られます。成果指標である「算数の授業が『よくわかる』、『どちらかといえばよくわかる』と答えた児童の割合」(小学生)については昨年度に引き続き目標値83.0%を超えており、本年度は、「数学の授業が『よくわかる』、『どちらかといえばよくわかる』と答えた生徒の割合」(中学生)も目標値85.0%を超えました。継続した学力向上への取組とともに、小学校における習熟度別学習の導入や中学校数学における少人数指導のあり方とともにわかる授業づくりをめざした授業改善等が効果をあげたと分析できます。

市内の学校施設の整備につきましては、耐震化工事は全て完了しており、引き続き教育環境の向上に向けた学校施設の整備を進めています。平成30年度は、小学校1校、中学校4校の空調設備の整備を実施しました。また残る14校については次年度に整備することとしています。

学校の規模・配置の適正化の推進につきましては、「『名張市立小中学校の規模・配置の適正化後期実施計画』の令和2(2020)年度末までの進め方について」を、市議会全員協

議会にて説明し、承認を得ました。その後、保護者や地域の皆さんへの説明会を開催し、理解を得ることができました。今後は、児童・生徒数の推移等に注視しながら、改めて新たな方針の策定も視野に入れ検討していく必要があります。

生涯学習の推進につきましては、成果指標としている「目的をもって生涯学習に取り組んでいる市民の割合（※市民意識調査より）」が年々低くなっております。本市においては、平成28年4月1日から公民館は市民のための実際生活に即する教育、学術及び文化に関する事業、地域づくり活動に関する事業その他の地域の活性化に資する事業を行い、市民の教養の向上、生活文化の振興、社会福祉の増進及び地域課題の解決を図り、もっと個性的で心豊かな地域社会の形成に寄与することを目的とする市民センター等へ移行しました。市民センター等は、豊かな地域社会の実現に向け、「市民が主体的にまちづくり」を行う拠点施設であり、従来からの「生涯学習の場」としてだけでなく、新たに「地域づくりの場」、「市民交流の場」としての役割を担うものです。本市においては、人が集い、学び合い、その学習の成果が地域づくりへとつながる生涯学習の必要性はますます高まっていると認識しています。

今後は、地域の資源を結び、市民のネットワーク拠点となる（仮称）名張市生涯学習センター機能の構築を目指します。

## 基本目標1 確かな学力の向上

担当室 学校教育室・教育センター・図書館  
教育総務室・〔保育幼稚園室〕

### 1. めざす姿

学校では、子どもの学ぶ意欲が引き出され、発達や理解度に応じたきめ細やかな指導が行われています。保育所(園)・幼稚園・小中学校等の連携が強化され、一人ひとりの子どもの学力にかかる課題を共有し、その解決に向けた指導方法の工夫と改善が図られています。子どもは、夢の実現に向けて、学力の基礎・基本を身に付け、自ら学び、考え、行動し、よりよく問題を解決する力を身に付けています。

### 2. 主な取組

- (1) 学力の向上
- (2) 特別支援教育の推進
- (3) キャリア教育の充実
- (4) 情報教育の推進とICTの活用
- (5) 就学前教育の充実
- (6) グローバル人材の育成

### 3. 進捗状況

進捗率 = (H30実績値 - H26現状値) / (R2目標値 - H26現状値)

成果指標	現状値(H26)		H28	H29	H30実績値	R1	R2	R2目標値	進捗率
国語・算数(数学)の授業が「よくわかる」、「どちらかといえばわかる」と答えた児童生徒の割合 ※全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査より	小学生	国語	84.0%	84.1%	88.6%	—		87.0%	-
		算数	77.3%	83.3%	88.0%	87.6%		83.0%	100.0%
	中学生	国語	71.5%	73.3%	80.6%	—		74.0%	-
		数学	83.3%	81.0%	81.5%	86.1%		85.0%	100.0%

※全国学力・学習状況調査において、質問項目から平成30年度は外されたため、H30実績値が未記入になっています。平成31年度は質問項目として復活したため、成果指標は変えずに据え置きます。

活動指標	現状値(H26)		H28	H29	H30実績値	R1	R2	R2目標値	進捗率
通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒のうち、個別の指導計画を保護者の合意のもとに作成している割合	小学生	14.3%	20.4%	25.0%	55.1%			30.0%	100.0%
	中学生	0.0%	2.2%	2.3%	8.4%			8.0%	100.0%
平日、学校の授業時間以外に「1日当たり30分以上の読書をしている」と答えた児童生徒の割合 ※全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査より	小学生	34.6%	35.8%	36.4%	36.4%			37.0%	75.0%
	中学生	28.9%	21.0%	26.2%	29.4%			31.0%	23.8%

### 4. 取組内容(平成30年4月～平成31年3月)

#### (1) 学力の向上

- ・全国学力・学習状況調査(小6・中3対象)を実施しました。(年間1回)
- ・みえスタディ・チェック(①小4・中1、②小5・中2対象)を実施しました。(①年間1回、②年間2回)
- ・名張市「学力・体力」調査活用検討委員会を実施しました。(年間5回)
- ・名張市「学習・生活」アンケート(小4・中1対象)を実施しました。(年間1回)
- ・名張市学力向上実践交流会を実施しました。(年間1回)
- ・なばりスタディ・チャレンジ(小3・小4・小6・中1)を実施しました。(年間1回)
- ・「魅力ある学校づくり」の取組をベースにして、「学力向上3本の矢」の取組を継続しながら、平成29年3月に告示された新学習指導要領も見据え、「主体的・対話的で深い学び」という新たな授業改善の視点も加え、各学校において学力向上の取組を進めました。

- ・学力向上便利ツールの活用を促進するため、教職員が1人1台使用するパソコンから、教職員が誰でもアクセスできる職員用全体フォルダの中に『学力宝箱』というフォルダを新設し、学力に係るデータの整理と充実を図りました。
- ・新学習指導要領の完全実施に向け、外国語教育や道徳教育等における授業づくりについて学ぶ研修講座を実施し、教員の授業力を高めることで学力向上を図る取組を行いました。また、国語及び算数においては、新学習指導要領がめざす授業づくりの方向性である「主体的・対話的で深い学び」に焦点を当てた研修講座を実施しました。
- ・特別支援教育担当者研修及び特別支援に係わる課題研修を充実させ、すべての子どもの学力の底上げにより、学力向上を図る研修講座を実施しました。

#### (2) 特別支援教育の推進

- ・各小中学校において、新学習指導要領をふまえ、通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対し、保護者と連携しながら個別の指導計画を活用して支援を進めるよう取り組みました。引き続き、研修会・事例検討会を通して教員のスキルアップを図るとともに、巡回指導員等を活用して校内支援の充実を図り、実践交流会等でその成果を広めていく取組を進めます。

#### (3) キャリア教育の充実

- ・小中一貫教育を進めている校区において、出前授業や乗り入れ授業等を行い、小・中学校のスムーズな接続に向けて学校間の交流を深めました。
- ・将来に向けて、自分の進路を切り拓く力をつけるため、地域の企業や商工会議所の協力を得て、市内5中学校の3年生(赤目中学校のみ2年生)が3日間の職場体験学習を実施しました。

#### (4) 情報教育の推進とICTの活用

- ・情報教育推進委員会を開催し、ICT機器(電子黒板、大型テレビ等)を活用した有効な指導や、情報モラル教育やプログラミング教育について研修し、各校の取組の情報共有をしました。(年間2回)
- ・情報教育推進委員会では次年度の全小学校のタブレット導入に向け、先行導入校1校(桔梗が丘小学校)での活用事例の共有も行いました。

#### (5) 就学前教育の充実

- ・「幼児教育アドバイザー」を4名配置しました。アドバイザーは、全ての幼稚園・保育所(園)・認定こども園を訪問しました。アドバイザーは、各園で小学校への円滑な接続を見据えた保育について、指導助言を行いました。
- ・「ピカ1先生」2名が市内全ての幼稚園・保育所(園)・認定こども園を巡回し、「しっかりとつなぐ育ちのバトンカリキュラム」に基づく保育実践を行うことにより、就学前段階の幼児に小学校への見通しと期待感をもたせる取組を行いました。
- ・「しっかりとつなぐ育ちのバトンカリキュラム」(確定版)を作成し、市内の幼稚園・保育所(園)・認定こども園の教員・保育士、小学校教員、市教育委員会及び福祉子ども部の関係者等に配付しました。
- ・研修会や幼稚園公開保育・小学校公開授業を実施し、幼児教育推進に係る教職員の研修の充実を図りました。

#### (6) グローバル人材の育成

- ・教員の英語指導力の向上をめざして、英語教育推進リーダー中央研修を受講した教員が校内研修を実施しました。(年間2回)

### 5. 検証(成果と今後の方向性)

#### (1) 学力の向上

- ・全国学力・学習状況調査の実施を受けて、早期からの自校採点や結果分析による強み・弱みの把握、検証をふまえた授業改善等に、各学校が取り組みました。
- ・名張市における「学力向上三本の矢」の取組が各学校に浸透し、①めあてと振り返りのある授業、②日常的な言語活動の充実については、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の結果を見ても、前年度に比べて伸びが見られました。一方で、③充実した家庭学習については、小・中学校卒業後のフォローについてですが、さくら教室の卒業生に対しては、職員がそれぞれの進学先へ訪問し、卒業後の学校生活の様子等について聞き取りを実施しております。また、月1回程度土曜日に、卒業生が思いを出せる場(さくらしゃべり場)を設けたり、年1回夏季休業中に、通級生と卒業生との交流会を行ったりして、情報交流ができる場づくりに努めております。
- ・「授業の内容がよくわかる」という質問に対する肯定的な回答は小中学校ともに80%を超えていますが、その時“わかる”だけでなく、時間がたっても“できる”ように定着を図るための取組の強化が必要です。中学校では、落ち着いた学習環境、徹底した学習規律、親和的な人間関係の中での学習が成果に結びついています。魅力ある学校づくり(心の居場所づくり、絆づくり)の取組を小中学校においてより一層進めます。
- ・学力向上実践交流会では、学校の具体的な実践報告や中学校ブロック別の交流等を行い、学力向上の取組について各学校が学び合う機会となりました。

・学力向上便利ツール『学力宝箱』の教職員の認知度がまだまだ高いとは言えない現状があります。さらに内容の充実及び周知を行い、教職員に便利さを実感してもらうことで、ワークシート等の活用を促進していく必要があります。

・活動指標である「平日、学校の授業時間以外に1日当たり30分以上の読書をしている児童生徒の割合」は、平成29年度と比較して、小学生が同数値、中学生においては3.2ポイントアップしました。この要因として、学校司書の授業支援の取組や教育センターにおける研修講座の工夫・取組が挙げられます。平成30年度は、各学校の図書館教育担当者が国語科の授業力アップ講座を受講し、学習での図書室(図書)の活用の仕方について学びました。また、司書教諭や学校司書、学校図書館ボランティアの資質能力の向上を目指し、市立図書館と協働し「図書館ボランティア研修講座・子ども読書活動推進研修講座」として年間3回の連続講座を実施しました。今後も、児童生徒の読書に関する興味関心を高める取組を進めます。

・市立図書館による学校図書館への支援として、学校図書館訪問や学校図書館への団体貸出、施設見学の受け入れを学校と連携を密にしながら引き続き実施するとともに、学校との連携のもと、第三次子ども読書活動推進計画に基づき、児童生徒の成長や学習の進捗に適した書籍等の資料の収集を行い、きめ細かな読書相談を実施し適切な資料の提供することにより、子どもの意欲の向上につながる読書活動を推進していきます。

## (2) 特別支援教育の推進

・通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対し、保護者と連携しながら個別の指導計画を活用して支援を進めている事例は増加しています。引き続き、研修会・事例検討会を通して教員のスキルアップを図るとともに、巡回指導員等を活用して校内支援の充実を図ります。

## (3) キャリア教育の充実

・小中一貫教育を推進し、校種を越えて児童生徒が交流することにより、学校での子どもの実態把握や自校での実践の見直しにもつながり、中学校区で義務教育9年間を見据えた系統的な指導を行うことが期待されます。  
・職場体験学習については、受け入れ可能な事業所が減る傾向にあります。新規事業所の開拓を進める必要があります。

## (4) 情報教育の推進とICTの活用

・情報モラル教育は、各校の年間計画に位置づけ、計画的に実施していきます。(全小中学校)  
・令和元年度は市内全小学校で、令和2年度は全中学校でLTE対応タブレットの配備を進める予定です。令和2年度から小学校で、令和3年度からは中学校でプログラミング教育が導入されることもあり、効果的なICT活用、プログラミング教育についての研究、研修を進めていきます。  
・高度な情報化社会の中、学校教育において、引き続き情報モラル教育を効果的に実施していくとともに、家庭での適切なメディア視聴のために保護者への啓発を続けていく必要があります。

## (5) 就学前教育の充実

・幼児教育アドバイザー4名による幼稚園・保育所(園)・認定こども園・小学校の巡回により、幼稚園・保育所(園)・認定こども園の教員・保育士が、幼児期教育と小学校教育の円滑な接続を意識して保育・教育を行うことができるようになってきました。  
・「ピカ1先生」が市内全ての幼稚園・保育所(園)・認定こども園を巡回し、「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」に基づく保育実践を行うことにより、就学前の子どもたちの小学校への滑らかな接続をめざしていく必要があります。  
・幼稚園・保育所(園)・認定こども園の教員・保育士と小学校教諭がともに学ぶ研修会を実施することにより、幼児教育・保育と学校教育の双方の視点で実践を考えることができ、幼・保・小での連携した取組につなげることができました。  
・今後は、モデル園で研究を進めてきた「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」の実践を更に市内各園に広げ、教職員研修を充実させ、幼児教育・保育と学校教育の円滑な接続を実現する取組を広げていく必要があります。

## (6) グローバル人材の育成

・英語教育や、ふるさと学習「なばり学」の小中一貫教育カリキュラムを活用し、9年間の義務教育でめざす子どもの姿を共有します。  
・今後も英語教育の早期化、教科化が盛り込まれた新学習指導要領の円滑な実施に向けて、教職員に対して移行期の英語教育の内容の周知と研修を行う必要があります。



## 基本目標2 豊かな人間性の醸成

担当室 学校教育室・教育センター・  
文化生涯学習室・図書館  
〔人権・男女共同参画室〕

### 1. めざす姿

子どもは、その年齢に応じた、生命や人権を尊重する態度、公共心や規範意識、他人を思いやる心、感動する心が育まれています。  
また、子どもは、日常的に読書に親しむとともに、郷土の自然や文化、歴史に親しみ、郷土を愛し、郷土を誇りに思う心が育まれています。

### 2. 主な取組

- (1) 人権・同和教育、道徳教育の推進
- (2) ふるさと学習「なばり学」の推進
- (3) 持続可能な開発のための教育(ESD)の推進
- (4) 読書活動・文化芸術活動の推進

### 3. 進捗状況

進捗率 = (H30実績値 - H28現状値) / (R2目標値 - H28現状値)

成果指標	現状値(H28)	H28	H29	H30実績値	R1	R2	R2目標値	進捗率
人が困っているときは、進んで助けていますかという質問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合 ※全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査より	小学生	40.3%	40.3%	40.8%	—		42.0%	—
	中学生	39.0%	39.0%	36.6%	—		41.0%	—

※全国学力・学習状況調査において、質問項目から平成30年度は外されたため、H30実績値が未記入になっています。平成31年度は質問項目として復活したため、成果指標は変えずに据え置きます。

進捗率 = (H30実績値 - H26現状値) / (R2目標値 - H26現状値)

活動指標	現状値(H26)	H28	H29	H30実績値	R1	R2	R2目標値	進捗率
今、住んでいる地域の行事に参加していますかという質問に「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合 ※全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査より	小学生	66.2%	66.1%	61.1%	68.1%		68.0%	100.0%
	中学生	45.1%	44.5%	32.9%	47.5%		47.0%	100.0%
平日、学校の授業時間以外に「1日当たり30分以上の読書をしている」と答えた児童生徒の割合 ※全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査より	小学生	34.6%	35.8%	36.4%	36.4%		37.0%	75.0%
	中学生	28.9%	21.0%	26.2%	29.4%		31.0%	23.8%

### 4. 取組内容(平成30年4月～平成31年3月)

#### (1) 人権・同和教育、道徳教育の推進

- ・学校人権・同和教育推進計画に基づいた各校・園における推進計画を策定し、その推進を図りました。
- ・学校人権・同和教育推進委員会を開催しました。(年間7回)
- ・各中学校区別研修会等を実施しました。(年間2～3回/各中学校区)
- ・部落問題を考える小学生のつどい(中学校区別)を開催しました。(年間1回/各中学校区)
- ・「ヒューマンライツ」(中学生による人権集会)を開催しました。(年間1回+実行委員会5回)
- ・人権・同和教育担当者研修会を開催しました。(年間1回)

#### (2) ふるさと学習「なばり学」の推進

- ・ふるさと学習「なばり学」学習資料集編集委員会を3回開催し、学習資料集編集方針や進捗状況の確認を行いました。
- ・各小中学校より担当教職員を招集して、ふるさと学習「なばり学」担当者会を4回開催しました。
- ・ふるさと学習「なばり学」学習資料集(下巻)を発行しました。
- ・教育センターでは「なばり学」の活用事例研究及び研修会を実施しました。

### (3) 持続可能な開発のための教育(ESD)の推進

・各学校において、ESDの視点を取り入れた教育を教科や総合的な学習の時間の中で行い、生命尊重、人への思いやり、郷土愛を育む心を育てる取組を行いました。

### (4) 読書活動・文化芸術活動の推進

・文化庁主催「文化芸術による子供の育成事業」を活用し、「芸術家の派遣事業」を2校、「巡回公演事業」を2校で実施し、子どもたちが本物の芸術と触れ合う機会をもちました。また、文化的行事にかかる予算を活用し、小学校10校が読書活動推進のためのお話し会や、芸術鑑賞などを実施しました。

・司書教諭、学校司書、学校図書館ボランティア、一般の方を対象に、市立図書館と協働し「図書館ボランティア研修講座・子ども読書活動推進研修講座」を年間3回連続講座として実施しました。計177名の参加がありました。

・図書館教育担当者会を3回開催し、読書活動の活性化に向けて各校の取組を交流しました。

・市立図書館と連携し、図書館流通センター(TRC)スタッフによる小学校訪問(各校年間2回ずつ)を実施しました。

・子どもの施設見学(小学校7校)、職場体験(中学校5校)を受け入れ、図書館への興味を深めることができました。

・株式会社アドバンスコープ主催、名張市・名張市教育委員会共催で、市内小中学生を対象に、「第11回なばり本の帯コンクール」(応募点数1,090点)を実施し、本の帯作りを通して、小中学生の読書活動の推進に寄与しました。

#### 【名張市郷土資料館】

・名張市郷土資料館において、昨年度に引き続き体験教室(火起こし、銅鏡づくり等の古代のモノづくり、古代人のコスプレ、本物の土器にタッチ、紙漉き)を実施しました(有料体験参加者378名)。オオサンショウウオの観察については開館日には希望に応じて随時実施しています。

・第3回子ども絵画展「ふるさと名張の風景自慢」を昨年度に引き続き開催しました(応募点数134点)。

・第3回ザリガニ釣り大会 & オオサンショウウオ観察会を昨年度に引き続き開催しました(参加者44人)。

・小学校等の見学の受入を11回、出張講座を19回開催しました。

#### 【古典芸能の普及】

・古典芸能の普及については、伝統文化の伝承や発展のために活動している子どもたちが集まり、「名張子ども伝統芸能祭り」において練習の成果を発表しました。(出演:名張子ども狂言の会、名張こども能楽囃子教室、名張音頭保存会子どもの部、伝統文化こども舞踊教室の4団体)

また、「観阿弥創座の地」である小波田において、毎年11月の第1日曜日に開催される「観阿弥祭」にも、名張子ども狂言の会、名張こども能楽囃子教室が出演しました。

## 5. 検証(成果と今後の方向性)

### (1) 人権・同和教育、道徳教育の推進

・各校での人権学習が、子どもの実態に合った取組になっているかを検討し、児童生徒につけたい力を明確にし、発達段階に応じた学習内容を位置付けるよう、各教科と関連づけた人権カリキュラムの見直しを行いました。

・部落問題が自分たちの問題としてとらえられ、正しい認識のもと、展望のもてる学習になるよう、各校での研修の充実を図ることができました。

・中学校区別の話し合いでは幼小中連携を図り、11年間をとおして育てたい子どもの像を共有し、実態交流を行いました。

・道徳教育においては、講師を招聘し講演会を開催し、授業展開や評価について学ぶ機会を持ちました。また、道徳教育担当者会を開催し、日々の実践に生かすことができるよう、各校での取組を交流しました。

・中学校区での児童生徒の実態交流を継続して行い、子どもの実態に基づいた人権学習を行い、各教科との関連を図りながら道徳教育を推進し、相手を思いやる心を育み、命を大切に規範意識を持って行動できる子どもの育成をめざしていきます。

### (2) ふるさと学習「なばり学」の推進

・学習資料集(下巻)が完成し、市内全小学校5年生から中学校3年生までが令和元年度から使用できるよう配付することができました。上巻と同様に、下巻も希望する市民への有料配付を行っていきます。

・学校ボランティアの専任コーディネーターが、授業支援のために各項目の授業プラン例及び映像コンテンツを作成し、教育センターの教育資料ポータルに掲載して教職員が活用できるようにしました。また、ふるさと学習「なばり学」の講師として協力いただける団体や個人のリストを作成し、施設の利用体験学習を進めるためにスクールバスの活用等、環境整備を進めました。

・令和元年度より市内小学校1年生から4年生では、学習資料集を活用してのふるさと学習「なばり学」が

本格実施、小学校5年生から中学校3年生では試行されることから、地域の方との交流を通して地域に対する思いや伝統に触れることで、地域行事等への参加や社会貢献につながる学習をさらに進めていきます。

### (3) 持続可能な開発のための教育(ESD)の推進

・ESDの取組が、各教科を通して行われ、地域と学校が連携を持ち、生命や人権を尊重し、公共心や規範意識を持ち、他人を思いやる心、郷土愛の心がより育つよう取り組んでいきます。

### (4) 読書活動・文化芸術活動の推進

・子どもたちが、日頃触れることのない表現の世界を体感することができ、文化芸術への興味関心を抱くとともに、貴重な体験ができました。

・文化庁主催の文化芸術事業を活用し、子どもたちの感性をさらに磨く教育を推進していく必要があります。

・学校司書がすべての小中学校を巡回することで、学校図書館の運営・管理と教育活動の支援等を行うことができました。

・担任や司書教諭が行う授業において、本に関する専門知識を持った学校司書が支援することで、学習が深まり、読書の幅が広がるなどの成果が表れています。今後は、学校司書の活用を増やすためのより積極的な取組が必要です。

・絵本学研究所より講師を招き、「子どもたちの創造力・思考力・物語力を育む」というテーマで研修講座を実施し、3回で計177名の参加がありました。講座は、子どもの年代(学年)における子どもの成長の特徴と、それぞれの年代で出会いたい本について、お話をいただきました。絵本が、子どもたちの想像力・創造力を育むためにどれだけ重要な学びの機会となりました。

・活動指標の「平日、学校の授業時間以外に1日当たり30分以上の読書をしている児童生徒の割合」(中学生)が、平成29年度と比較し、3.2ポイントの上昇がみられています。今後も、学校司書が授業や委員会活動等を支援する機会を増やす取組を続けていきたいと思えます。

・年3回、図書館教育担当者会を開催し、それぞれの学校での取組について意見交換しました。今後も各校の担当者が、図書館教育の推進者として積極的に取組を進めることができるよう、担当者会の内容等について工夫、改善を図っていきます。

・平成30年度より、「学校図書館教育を充実していくための取組(事業)」を始めました。

・「とよだより」の全児童生徒への配布を通して、読書活動の推進及び啓発を行いました。4月の「子ども読書の日」に係るたよりに、「家読(うちどく)のススメ」と題し、家読の推進を図りました。今後も継続して取組を進めていきたいと思えます。

### 【名張市郷土資料館】

・各事業に多くの皆様に参加をいただいています。今後も創意工夫をし、また、関係機関やボランティア団体等の協力を得ながら事業を実施していきます。

### 【古典芸能の普及・振興】

・「名張子ども伝統芸能祭り」を毎年開催し、恒例的に出演することで、子どもたちは「専門的な文化会館の舞台上で発表する」という目標を持ち、練習を重ねることで、古典芸能の普及を図ってまいります。

また、大人たちで構成する謡曲団体と共に「観阿弥祭」へ出演することで、伝統文化への意識の向上を高め、能楽振興を通して地域の文化的活動を推進することにも努めます。

## 基本目標3 健やかな体の育成

担当室 学校教育室・教育センター・  
市民スポーツ室・教育総務室  
〔健康・子育て支援室〕

### 1. めざす姿

子どもは、自らの健康を適切に管理・改善するとともに、進んで運動に親しみ、たくましく生きるための健康と体を備えています。  
また、保育所(園)・幼稚園・小中学校は関係機関と連携しながら、子どもの実態に応じた健康・食教育を推進しています。

### 2. 主な取組

- (1)健康教育の推進
- (2)体力向上に向けた取組の推進
- (3)食育の推進

### 3. 進捗状況

$$\text{進捗率} = (\text{H30実績値} - \text{H26現状値}) / (\text{R2目標値} - \text{H26現状値})$$

成果指標	現状値(H26)		H28	H29実績値	H30実績値	R1	R2	R2目標値	進捗率
朝食を毎日食べていますかという質問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合 ※全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査より ※「名張市ばりばり食育推進計画」の指標と合わせ目標値を設定しました。	小学生	85.3%	86.3%	87.7%	82.0%			97.0%	0.0%
	中学生	85.3%	86.0%	84.3%	81.6%			97.0%	0.0%

活動指標	現状値(H26)		H28	H29実績値	H30実績値	R1	R2	R2目標値	進捗率	
総合型地域スポーツクラブの設置数	2クラブ		3クラブ	4クラブ	4クラブ			7クラブ	40.0%	
全国体力・運動能力、運動習慣等調査による総合評価(5段階)がA・BCとなった児童生徒の割合【小5・中2】	小5	男子	70.7%	70.3%	75.2%	74.3%			75.0%	83.7%
		女子	65.8%	73.4%	73.4%	81.6%			75.0%	100.0%
	中2	男子	76.6%	74.0%	78.1%	78.3%			80.0%	50.0%
		女子	88.9%	96.8%	89.5%	91.7%			90.0%	100.0%

### 4. 取組内容(平成30年4月～平成31年3月)

#### (1)健康教育の推進

- ・名賀医師会、伊賀歯科医師会、伊賀薬剤師会と福祉子ども部、教育委員会、学校が連携し、学校保健の円滑な遂行及び向上を目的として、名張市立学校保健連絡協議会を開催しました。(年間1回)
- ・健康教育の推進のため、学校からの要請に応じて、保健師を派遣し、性教育の授業を実施しました。(中学校5校13回、小学校4校4回)
- ・生活習慣病予防の一環として保健師が出前トークを行いました。(中学校1校1回、小学校2校5回)
- ・学校の要請に応じて、歯や口の健康を目的とする歯科衛生士による授業を実施しました。(小学校1校3回)
- ・養護教諭を対象に、性教育の研修会を開催しました。(年間1回)
- ・「早ね早おき朝ごはん」のチェックシートを活用し、集中取組期間を設けて、生活習慣の確立を目指して取り組みました。

## (2) 体力向上に向けた取組の推進

- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査とともに、名張市独自に市内小学校3年生の児童、中学校1年生の生徒を対象に新体力テストを実施し、その結果分析をもとに各学校にて体力向上の推進計画を作成し、それに基づく教育活動を実施しました。名張市学力・体力調査活用検討委員会にて名張市全体の分析を行いました。
- ・保健体育代表者会において体力向上に向けて、中学校ブロックごとの取組指標を定め、各校で実践しました。(代表者会:年間4回)
- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果、新体力テストの結果、学校の取組、運動の大切さや食事・睡眠等生活習慣の大切さについて保護者に啓発するため、各学校が通信やホームページでこれらについて発信しました。
- ・児童生徒の運動に対する興味関心を高めるため、各学校が体力向上のために重点的に実践する「一校一実践」に取り組みました。
- ・体育研修会、実技講習会を開催しました。(年間2回)

## (3) 食育の推進

- ・食育担当者会を開催し、中学校での食育実践の取組と薦原保育所の食育の実践をテーマに意見交換しました。また、幼稚園・保育所(園)・認定こども園、小学校、中学校での食育の取組について、食に関する全体指導計画、年間指導計画を基に、子どもたちの食に関する状況、指導の現状の交流を行い、成果や課題を共有することができました。グループ討議では、「基本的な生活習慣の形成」について、朝食摂取を中心に、現状の情報交換するとともに今後の実践について話し合うことができました。
- ・栄養教諭や食育担当者が担任・各教科担当と連携し、朝食の大切さや栄養バランス等について保護者への啓発を行いました。

## 5. 検証(成果と今後の方向性)

### (1) 健康教育の推進

- ・朝食摂取率は、平成29年度に比べ小中学生ともに低下しました。全国の平均値も小中学生ともに低下しており、同じ傾向にあります。朝食摂取率につきましては、「名張市ばりばり食育推進計画」の成果指標にしていることから、健康・子育て支援室とも連携をしながら、今後も引き続き、児童生徒の食への意識を向上させる食育の取組を積極的に推進するとともに、保護者への啓発も行っていきます。
- ・「早ね早おき朝ごはん」の生活習慣確立のためのチェックシートを活用し、引き続き、子どもへの意識付けと、保護者への啓発を図ります。
- ・健康・子育て支援室の担当保健師と小中学校との連絡会(学校保健委員会)を充実し、保健教育をさらに推進していくため、学校に積極的に働きかけていきます。

### (2) 体力向上に向けた取組の推進

- ・中学校ブロックごとに小中9年間の系統的な取組を実施し、小中一貫教育へとつなげます。
- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査による総合評価がABCとなる男子児童生徒の割合を高めるため、「体を動かすことが好き、運動するのが好き」と思える授業づくりや、「めあて」と「ふりかえり」の明確な提示等により、効果のある運動を促進する授業改善を図ります。
- ・各校の全国体力・運動能力、運動習慣等調査や体力テスト、中学校ブロックごとのデータ集計の結果を分析し、強みと弱みを把握することや、研修会や実技講習会を活かし、授業改善や体力向上の取組を進めていきます。

### (3) 食育の推進

- ・食育は、年間指導計画を基に年齢に応じた学習を進めています。小学校では、栄養教諭と連携をとりながら、中学校では、食育担当を中心に学習を進めています。特に、体験学習を通じた、食育の取組が子どもたちの食への関心を高める機会になっています。今後は、子ども自身で自分の食生活を振り返ることができるようにするとともに、食と健康を意識し食を大切にできる力を育み、家庭への発信も強化できるよう取り組んでいきます。

## 基本目標4 活力ある学校づくり

担当室 教育センター・学校教育室  
文化生涯学習室

### 1. めざす姿

教職員は、研修によって質の高い授業力・指導力を身に付け、互いに学び合い、いきいきと子どもの教育に当たっています。また、子どもや保護者との間に深い信頼関係を築いています。  
学校は、学校運営や教育活動について家庭・地域に積極的に情報発信し、保護者や地域住民は、いつでも学校や子どもの様子を知ることができます。  
学校と家庭、地域は、学校の強み、弱みを共有し、一丸となって、課題の解消に努めています。

### 2. 主な取組

- (1) 教職員が働きやすい環境づくり
- (2) 学校の組織力の向上
- (3) 教職員の指導力の向上

### 3. 進捗状況

進捗率 = (H30実績値 - H26現状値) / (R2目標値 - H26現状値)

成果指標	現状値(H26)	H28	H29	H30実績値	R1	R2	R2目標値	進捗率
教育センターで開催した研修講座のアンケートで「A(満足できる)、B(どちらかという満足)、C(どちらかという不満)、D(不満)」のうち、「A(満足している)」と回答した参加者の割合	74.8%	74.8%	67.6%	68.2%			81.0%	0.0%

活動指標	現状値(H26)	H28	H29	H30実績値	R1	R2	R2目標値	進捗率
学校生活支援ボランティアの登録者数	573名	702名	771名	855名			630名	100.0%
教職員の年次有給休暇の1人当たりの年間取得日数	10日	10.7日	10.0日	10.8日			15日	16.0%

### 4. 取組内容(平成30年4月～平成31年3月)

- (1) 教職員が働きやすい環境づくり
  - ・「名張市立小中学校職員に係る過重労働による健康障害防止のための対策実施要項」の作成や、労働基準法第36条に基づく協定の締結を進めました。
  - ・相談業務を行う関係機関が集まり、情報交換・共有を行うことで、学校現場により適切な対応を行うことができました(年12回)。
  - ・学校現場と教育委員会それぞれが協働して、業務の適正化を進めるよう周知しました。
  - ・教育委員会からの配布物の精選に努めました。
  - ・校務支援につながる情報教育環境の整備や指導要録の電子化等について検討しました。
  - ・名張市職員安全衛生委員会の学校部会での話し合いの内容についての「たより」を発行し、学校での取組を支援しました。
  - ・働き方改革について、個々の教職員の時間外勤務の実態を把握するとともに、意識改革を一層進めるよう促しました。
  - ・小中一貫教育、コミュニティ・スクールの推進は、思い切った行事の精選や働き方を見つめるチャンスであることを踏まえ、行事の精選を進めました。
  - ・「健康増進法の一部を改正する法律」の施行に伴い、学校敷地内禁煙の実現に取り組みました。

#### (2) 学校の組織力の向上

- ・教育センターの実施する研修講座については、各研修講座ごとにアンケートを実施し、教職員が求める研修講座や講師について把握し、新たな講座を新設しました。

- ・地域住民が学校を支援する取組である学校支援地域本部事業を引き続き、市内全小中学校において実施しました。
- ・学校支援地域本部事業の推進及び名張版コミュニティ・スクールの推進に向けて、チーフコーディネーターによる学校訪問を実施し、進捗状況や課題等の把握に努めました。(年3回)

### (3)教職員の指導力の向上

- ・国の動向や喫緊の課題に対応した研修講座を実施しました。(道徳教育、新学習指導要領への対応、外国語活動、小中一貫教育)
- ・教職員の授業改善を促進するため、市の学校教育研究推進校3校1園の他に学校長の要請に応じて指導主事が学校を訪問し、指導助言を行いました。

## 5. 検証(成果と今後の方向性)

### (1)教職員が働きやすい環境づくり

- ・時間外勤務については、小中学校の教職員の一人あたり月平均が、平成29年度は23.9時間、平成30年度は22.0時間となり、1.9時間減少しました。
- ・休暇(年休+特休)の取得については、小中学校の教職員の一人あたり月平均が、平成29年度は1.64日、平成30年度は1.67日となり、0.03日増加しました。
- ・市教育委員会主催の担当者会(道徳教育担当者会、教育課程検討委員会、食育担当者会、外国語活動担当者会、情報教育担当者会など)の実施回数の適正を図りました。
- ・今後も引き続いて、学校と教育委員会が協働して業務の適正化を進める必要があります。
- ・県費負担教職員も市職員も人事評価制度を進める中で、働き方についても管理職とともにPDCAを意識しさらなる改善に努めていく必要があります。
- ・学校の安全衛生委員会を機能させ、さらに実効あるものにしていく必要があります。
- ・学校生活支援ボランティアの登録者が年々増加しており、各学校において様々な支援活動が行われています。今後も教職員が子どもと向き合える時間を確保するために、学校の様々な場面でボランティアによる支援が行われるよう取り組んでいきます。

### (2)学校の組織力の向上

- ・一部の職員の意識が変わることでその学校の働き方全体が変わることがあることも踏まえ、中長期的な計画のもとに業務を遂行できるよう、管理職やベテラン教職員がアドバイスするなどし、個々の教職員の意識改革を一層進める必要があります。
- ・学校生活支援ボランティアの登録者数は年々増加しており、各学校において様々な支援活動が行われています。今後も教職員が子どもたちと向き合える時間を確保するために、学校の様々な場面でボランティアによる支援が行われるよう引き続き取り組んでいきます。
- ・学校生活支援ボランティア対象のボランティアサロンや養成講座を継続実施し、さらなる登録者の拡大とボランティアの資質向上をめざし取り組みます。

### (3)教職員の指導力の向上

- ・教育委員会が指定する学校教育研究推進校3校1園のうち、平成30年度は1校1園が研究の成果を発表しました。研究テーマは、喫緊の市の教育課題であり、研究に取り組むことにより学校内の教職員の授業改善・指導力向上等の成果が表れています。
- ・研修講座のアンケートでは、「A(満足できる)」、「B(どちらかというと満足)」を合わせた割合は98%以上であり、高い満足度を得ています。「A(満足している)」と回答した参加者の割合は平成29年度と比較して0.6ポイントの上昇が見られました。今後も引き続き、研修講座を構築する時点で、国の動向や教職員のニーズを把握して計画することで、研修講座のアンケート「A(満足している)」の割合の向上をめざします。

## 基本目標5 安全で安心な教育環境の整備

担当室 教育総務室・学校教育室  
教育センター・文化生涯学習室

### 1. めざす姿

子どもは、地域に見守られ、安全に登校し、整備された学校施設の中で、快適に学校生活を送っています。  
また、居心地のよい学校、学級づくりが行われ、子どもは安心して、いきいきと楽しく学校生活を送っています。  
学校、家庭、地域が連携、協働し、地域全体で学校を支える環境が整備され、子どもは、地域の中で健やかに成長しています。

### 2. 主な取組

- (1) 子どもの安全・安心の確保
- (2) いじめや問題行動を未然に防ぐ学校づくり
- (3) 居心地の良い集団づくり
- (4) 学校の規模・配置の適正化の推進

### 3. 進捗状況

進捗率 = (H30実績値 - H26現状値) / (R2目標値 - H26現状値)

成果指標	現状値(H26)	H28	H29	H30実績値	R1	R2	R2目標値	進捗率
小中学校の教育環境に満足している市民の割合 ※市民意識調査より	59.3%	56.2%	62.4%	62.8%			68.0%	40.2%

活動指標	現状値(H26)	H28	H29	H30実績値	R1	R2	R2目標値	進捗率
学級満足度調査による満足群にいる児童生徒の割合	64.4%	67.0%	67.8%	69.1%			67.0%	100.0%
小中学校の老朽施設(棟)の整備数(延べ値)	18施設	21施設	21施設	21施設			28施設	30.0%

### 4. 取組内容(平成30年4月～平成31年3月)

#### (1) 子どもの安全・安心の確保

・市内の学校施設の耐震化につきましては、全て完了しており、引き続き教育環境の向上に向けた学校施設の整備を進めています。本年度は小学校1校、中学校4校の空調設備の整備を実施しました。また来年度の空調設備整備工事に向けて残りの小学校13校の実設計画を実施しました。

#### (2) いじめや問題行動を未然に防ぐ学校づくり (3) 居心地の良い集団づくり

・「いじめ防止対策推進法」「名張市いじめ防止基本方針」に基づき、市内小中学校では、「学校いじめ防止基本方針」を改定し、いじめの未然防止、早期発見、迅速、適切な対応に努めました。

・適応指導教室では、子どもの実態と課題に沿った体験活動を行うことで、意欲や自信が高められ、自己有用感を感じることが出来る取組を実施しました。また相談員が学校訪問を行い、学校との連携を深めました。卒業後のフォローについては、職員がそれぞれの進学先へ訪問し、卒業後の学校生活の様子等について聞き取りを実施しています。また、月1回程度土曜日に、卒業生が思いを出せる場(さくらしやべり場)を設けたり、年1回夏季休業中に、通級生と卒業生との交流会を行ったりして、情報交流ができる場づくりに努めています。

・教育センターでは「よろず相談」として、教育専門相談員や臨床心理に関して高度な専門的な知識・経験を有する臨床心理士等により、教育相談体制の充実を図りました。

・各種委員会を開催しました。(生徒指導推進委員会・教育相談担当者会議・学級満足度調査活用検討委員会)

・年間2回の学級満足度調査(Q-U調査)を市内全小中学校の全児童生徒で実施しました。

・講師を招聘して教職員対象の研修会を実施するとともに各学校の取組について意見交換を実施しまし



た。

・エリアディレクターが名張市要保護児童対策及びDV対策協議会事務担当者会議に参加し、情報交換、情報共有を行いました。

・支援が必要な子どもや家庭に対して、関係機関等と連携してケース会議を開催し、適切な支援等について協議しました。また、エリアディレクターがコーディネートして、学校関係者と関係機関による情報交換や打合せを必要に応じて実施しました。

・国や県の事業を受けて、年次ごとに段階を経て市内小中学校にスクールカウンセラーを配置し、子どもたちが安心して学校生活を送れるよう支援体制の充実を図りました。

・適応指導教室では、子どもの実態と課題に沿った小集団を中心とした体験学習や活動を通して、通級生との心理的発達や自立を援助するとともに、心の居場所・絆づくりの場となり、意欲や自信が高められ、自己有用感を感じることができるとともに各学校の取組について意見交流しました。

・学校と関係機関をつなぐ専門家として、スクール・ソーシャル・ワーカーが、学校だけで解決することが困難な課題に対して、指導助言を行いました。(延べ174件)また、定期的に学校を巡回し、管理職との面談により、学校経営に関する支援を行いました。(各小中学校年間2回ずつ)

・外部講師を招聘しての教職員対象の研修会を実施するとともに各学校の取組について意見交流しました。(年間3回)

・適応指導教室相談員が学校を訪問し、情報交換及び個々の事例の検討を行い、連携を深めました。

・地域・学校・警察・市民団体等で構成する「名張少年サポートふれあい隊(143名 10班体制)」を組織し、夜間や祭礼時のパトロール活動・有害環境浄化活動等に取り組みました。また、青少年補導センターと合同で不審者対策を目的としたパトロールを実施しました(夜間・祭礼時等のパトロールに年間延べ921名の参加。有害環境一掃大作戦63名参加、57店舗巡回。)

・青少年補導センターによる街頭補導や、安全パトロール、下校支援、青少年悩み相談等を行いました。

・子どもを守る家の普及による不審者対策に取り組みました。(協力者件数2,015件)

・市内小中学校・高校や警察をはじめとする関係機関が集まり、青少年の非行や問題行動等についての情報交換・共有を行う校外生活指導協議会を実施しました(年6回)。

・青少年の相談業務について関係機関が集まり、情報交換・共有を行う相談機関打合せ会を実施しました(年12回)。

#### (4) 学校の規模・配置の適正化の推進

・「名張市立小中学校の規模・配置の適正化後期実施計画(案)」につきましては、令和2(2020)年度末までの進め方についてを、1月市議会全員協議会にて説明し、承認を得ました。その後、保護者や地域の皆さんへの説明会を開催し、理解を得ることができました。

・北中学校と桔梗が丘中学校の校区再編を円滑に行うため、保護者・地域住民・該当学校長等・行政職員で構成する校区再編準備協議会を開催しました。(4回:うち部会2回)

## 5. 検証(成果と今後の方向性)

### (1) 子どもの安全・安心の確保

・学校施設の老朽化は年々進行している中で、施設の整備については「(仮称)名張市学校施設長寿命化計画」を策定し、計画的に進めていく必要があります。

・空調設備の整備については当初平成30年度から令和2年度までの3か年間で全ての小中学校への空調設備の整備を予定しておりましたが、昨今の猛暑を受けて、平成30年度、令和元年度の2か年間で全ての小中学校へ空調設備の整備をしていきます。

・平成30年度末に三重県より名張桔梗丘高等学校跡地の譲渡を受けたことから、この施設を活用し「(仮称)新桔梗が丘中学校」として令和2年4月の開校を目指し、令和元年度に校舎の改修工事を実施していきます。また、この改修工事の中で空調設備の整備も併せて実施していきます。

### (2) いじめや問題行動を未然に防ぐ学校づくり (3) 居心地の良い集団づくり

・適応指導教室と学校との情報共有や支援の方針の一致を図ることで、学校において安心できる環境をつくる取組が増えました。今後も引き続き、児童生徒が学校復帰できる取組が必要であると考えます。

・教育よろず相談では、様々な知識を備えた教育専門員や臨床心理士による相談体制を構築し、相談者がメンタルヘルスケアを受けやすい環境を整えることができました。

・学級満足度調査において満足群に位置する児童生徒の割合が年々増えてきています。調査結果を検証することにより、学校の「めざす児童生徒像」実現に向けた取組の評価とその改善に生かすことができました。また、学級経営をはじめとする集団づくりの指導の工夫と改善やいじめ等の問題行動や不登校の未然防止・早期発見・早期対応にも生かすことができました。しかし、不登校児童生徒は全国水準より少ないも

の、小学校低学年からの不適応、家庭環境や生育歴等の背景に伴う不適応や長期欠席者の増加等の新たな課題も出てきています。

- ・「居心地のよい学級集団」づくりから「学びに向かう集団」「学び合う集団」づくりへの取組を今後も継続して進めていく必要があります。各学校での学級間、学年間の取組の差をなくし、学校体制(学校ぐるみ)による取組をさらに推進できるよう、教職員間で意思統一をするとともに、情報共有を図っていきます。
- ・スクールカウンセラーの有効活用について、小中学校間の接続をスムーズにするとともに、生徒指導体制及び教育相談体制の充実を図るために、今後も中学校区内の全ての小中学校に同一のスクールカウンセラーを配置できるようにしていく必要があります。
- ・多様化、深刻化するケースに対して、学校と関係機関をつなぐ専門家として、エリアディレクターとスクールソーシャルワーカーの配置拡充が必要です。
- ・青少年の非行件数は減少傾向にありますが、不審者情報の増加や全国的に青少年が巻き込まれる事件が発生しているなかで、子どもたちの見守り体制を強化していく必要があります。地域ぐるみで子どもを守る取り組みとして、子どもを守る家事業の普及による不審者対策や、「名張少年サポートふれあい隊」による夜間パトロール等を引き続き行い、地域ぐるみで子どもを非行や犯罪から守る体制の充実・強化に努めます。また、ふれあい隊や青少年補導センター、警察、学校等の関係機関・団体間との情報共有を密にし、不審者情報への迅速な対応や連携の強化を図り、子どもたちの安心安全の確保に取り組みます。
- ・校外生活指導協議会や相談機関打合せ会といった、子どもたちに関わる関係機関が一同に会し、情報の共有や交換を行うことで、問題行動や非行に至る背景を探り、その対応に活かしていきます。

#### (4) 学校の規模・配置の適正化の推進

- ・「名張市立小中学校の規模・配置の適正化後期実施計画」については、計画の終期が約2年後となることから、計画の遂行については、いったん区切りをつけ、次のとおりとしました。後期実施計画期間終了後は、児童・生徒数の推移等に注視しながら、改めて新たな方針の策定も視野に入れ検討する必要があります。
- ・旧県立名張桔梗丘高等学校を利活用した(仮称)新桔梗が丘中学校の開校を令和2(2020)年4月に控え、校舎改修等、環境を整えていく必要があります。
- ・校区再編準備協議会を来年度も引き続き開催する中で、保護者や地域住民、学校とともに、北中学校と桔梗が丘中学校の校区再編に向けての準備を進める必要があります。

## 基本目標6 家庭・地域との協働の推進

担当室 文化生涯学習室・教育センター  
市民スポーツ室・学校教育室

### 1. めざす姿

保護者の子育てに対する不安や悩みに関する相談体制が整備されるとともに、「家庭における子育ては地域全体で応援していこう」という市民の意識が高まり、安心して子どもを産み、育てる環境が整っています。また、子どもは、温かい家庭において生まれ、望ましい生活習慣や規範意識を身に付けています。

### 2. 主な取組

- (1) 家庭の教育力の向上
- (2) 地域の教育力の向上

### 3. 進捗状況

進捗率 = (H30実績値 - H26現状値) / (R2目標値 - H26現状値)

成果指標	現状値(H26)	H28	H29	H30実績値	R1	R2	R2目標値	進捗率
目的をもって生涯学習に取り組んでいる市民の割合 ※市民意識調査より	44.5%	45.1%	42.5%	41.6%			47.0%	0.0%

活動指標	現状値(H26)	H28	H29	H30実績値	R1	R2	R2目標値	進捗率
学校生活支援ボランティアの登録者数	573名	702名	771名	855名			630名	100.0%
名張Kidsサポータークラブの登録者数	39名	62名	59名	75名			60名	100.0%

### 4. 取組内容(平成30年4月～平成31年3月)

#### (1) 家庭の教育力の向上

- ・「子育て支援研修会」として特別支援教育士を講師に、テーマ別3回の研修会を実施しました。(参加者156名)
- ・「家庭教育講座」(5回連続講座)を実施し、講話を聞いて学ぶだけでなく、グループ別に受講者の思いや悩みを出し合える場も設定しました。(参加者230名)
- ・家庭教育を地域に広げるために、地域の子育てサロン「ひろば」(4か所)へ担当者が出向き、啓発を行いました。(年間3回ずつ)
- ・生涯学習リーダーや市民センター職員を対象に、研修会をしたり、家庭教育について名張市教育センターの取組についての紹介をしたりして、各地域の市民センターを身近な生涯学習の場として活用できるようにしました。あわせて各市民センターでの家庭教育の取組や課題についての意見交換をしました。また、「名張市の地域における生涯学習推進に関する指針」に基づき、地域の市民センターで家庭教育講座を88講座開設しました。

#### (2) 地域の教育力の向上

- ・学校生活支援ボランティア研修会を実施しました。(参加者67名)
- ・毎月第1木曜日にボランティア・サロンを実施し、情報交換を行いました。教育センターで6回、学校出前で5回の計11回を実施しました。(63名参加)
- ・地域のボランティアの方々が学校を支援する取組みである学校支援地域本部事業を引き続き、市内全小中学校において実施しました。
- ・学校支援地域本部事業に係るコーディネーター研修会を計画し、地域コーディネーターの人材発掘支援

に取り組みましたが、研修会当日は台風のため中止としました。

- ・地域学校協働活動研修会を実施しました。(45名参加)
- ・子どもの居場所づくりを目的とした放課後子ども教室を地域づくり組織等に委託し実施しました(6教室8小学校区)。
- ・子どもが参加する行事などでレクリエーションゲームを行ったり、運営のサポートを行ったりする青少年ボランティアのジュニアリーダーを養成するジュニアリーダー養成講座を実施しました(2回 22名修了、うち21名がKidsサポータークラブへ加入)。
- ・ジュニアリーダー養成講座を修了した子どもたちの多くが所属するKidsサポータークラブの活動を支援しました。
- ・Kidsサポータークラブのジュニアリーダーたちの技術向上のための研修会を実施し、継続して活動を行えるよう支援しました(13名参加)。

## 5. 検証(成果と今後の方向性)

### (1)家庭の教育力の向上

- ・教育センターで実施している教育よろず相談の件数は延べ366件(来所による相談76件、電話による相談108件、臨床心理士への相談182件)と前年度の420件と比較してやや減少しています。中でも保護者からの学校対応に対する相談が減少しました。今後も教育相談により保護者への支援を継続していきます。
- ・「子育て支援研修会」への参加者は3回開催延べ156名、「家庭教育講座」への参加者は5回開催延べ230名であり、継続して受講する保護者が増えてきました。今後、「家庭教育講座」は、より多くの保護者が参加できるよう、地域の子育てサロンへの積極的な参加を促したり、市民センター等での開催したりなど、広げていく必要があります。

### (2)地域の教育力の向上

- ・学校支援地域本部事業を市内全小中学校において実施しました。引き続き、学校のニーズに合った支援が行えるように地域人材の発掘や育成のために研修会を実施し、支援活動を行う者同士の情報交換や交流の場を設けます。また、学校支援地域本部事業を基に、地域学校協働活動が行えるよう地域コーディネーターの養成や体制づくりに取り組んでいきます。
- ・これまでの学校支援地域本部事業の取組をコミュニティ・スクール推進のための組織として発展させていけるよう、保護者・地域と学校との連携・協働を支援していく必要があります。
- ・教育センターにおいて、引き続き地域人材の発掘や育成のために研修会を開催し、支援活動を行う者同士の情報交換や交流の場を設けます。また、学校支援地域本部事業を基に、地域学校協働活動が行えるよう地域コーディネーターの養成や体制づくりに取り組んでいきます。
- ・放課後子ども教室は、様々な体験活動や地域住民との交流活動などにより、子どもの居場所づくりや世代間交流ができるものとなっていますが、市内全小学校区で実施されていない状況もあり、今後、地域づくり組織へ事業の説明を行い、未実施の学校区において新規教室が開設できるよう取り組んでいきます。
- ・ジュニアリーダーについては、青少年がボランティア活動を通して社会に参加し、様々な体験のなかで成長できる機会となっています。ジュニアリーダー養成講座を修了した者の多くが所属し、活動している名張Kidsサポータークラブの入会者は増加していますが、部活動や進学を理由に活動に参加できない者や退会をする者も多くいる中で、ボランティア団体として、継続的に活動ができるように活動機会の提供や、資質向上を目的とした研修会を実施するなどの支援を行います。



名張市教育振興基本計画  
第二次名張市子ども教育ビジョン  
平成30年度進捗状況報告書

令和元年12月  
名張市教育委員会